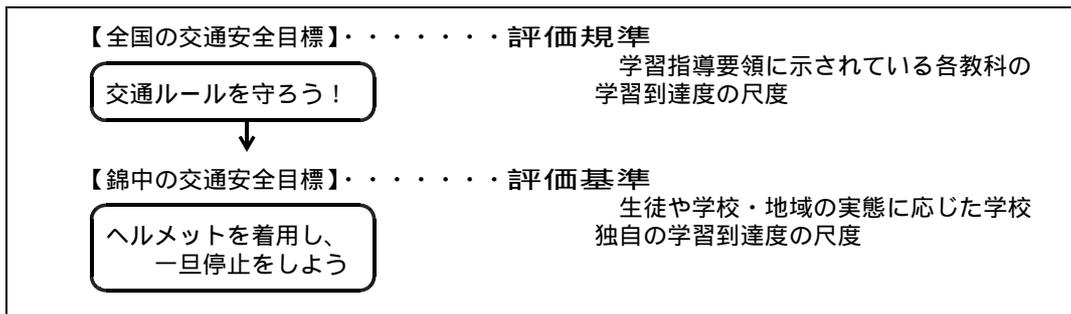




ね満足できる」とする学習到達の尺度を示したものである。「評価基準」とは、生徒や学校・地域の実態に応じて、「評価規準」を具体化したものであり、教科目標の到達を目指したその学校独自の学習到達の尺度を示したものであると考える。

社会生活に例えてみることにする。全国で交通事故をなくすために「交通ルールを守ろう!」といった目標が設定され、それに基づき錦中学校では、「ヘルメットを着用し、一旦停止をしよう」といった具体的な遵守項目を設定したとする。すなわち錦中学校では、生徒がヘルメットを着用して、一旦停止を徹底できれば、交通事故をなくすという目標が達成できるということである。この例を、評価規準と評価基準の位置づけとして示したのが資料1である。

【資料1】



2. 自己評価（日常的評価）の重要性

これから、生徒たちが「生きる力」を身につけていくためには、「自己学習力」とともに「自己評価能力」が重要である。「自己評価」とは、学習状況や達成度について、学習の主体者である生徒自身が評価することである。この「自己評価」は、自分自身の可能性を見だし、将来を切り開いていく力を育成するためにも重要な活動であり、生徒の「生きる力」を育てる活動そのものであると考える。これまで生徒に知識や技能を習得させることに力を尽くしてきたばかりに生徒が、自らを客観的に見つめたり振り返ったりする能力や態度の育成を見落とししてきたなどの反省を踏まえ、自分の学習のあり方を客観的に振り返り、将来に結びつけようとする態度を育てることができる「自己評価」の実践に努めていきたい。

3. 「能動的」学習から「能動型」学習への展開

これまで行われてきた大方の問題解決的な学習は、学習課題あるいは問題自体をあらかじめ教師が用意することが多く、その課題を生徒に調べさせたり、検討させたりする学習活動、いわゆる「能動的」な学習であった。生徒の学習が楽しく、そして主体的に展開されるためには、学習対象である社会事象に、生徒自らの課題を持って調べ、自らの体験や作業などの活動を通して自分なりの見通しをもって解決をしていくことが「能動型」の学習であるとする。すなわち内発的動機づけによる学習意欲の喚起を大切にしたいものである。この点を踏まえ、「能動型学習」については、下記の表について留意して展開していきたい。

【資料2】

	「能動的」学習	「能動型」学習
学習課題の設定	教師が学習課題をあらかじめ用意した、外発的動機づけによる課題設定である。	生徒が社会事象に対する興味・関心を持った、内発的動機づけによる課題設定である。
問題解決の方法	外発的な動機づけのため、主体的な課題解決学習に成り得にくくその成果も統一化される。	主体的な調べ学習により、資料への探求能力や分析能力を高め、その成果も生徒によって異なる。
	授業の終了時の評価活動である	展開の中に評価が位置づけられ

評価のあり方	ため、結果重視の評価活動となりやすい。	るため、生徒の学習過程を評価しやすい。
--------	---------------------	---------------------

#### 4. 個に応じた授業の工夫について

本校の数学科と英語科では、昨年度から全学年でTT授業を実施している。数学科では、今年度よりTT授業に加え、2・3年生で週2時間ずつ少人数制授業を実施し、さまざまな研究を進めてきた。この研究授業を実施する上で、単に教師一人あたりの指導生徒の数を少なくできるというだけでなく、数学的な見方・考え方を多角的・多面的にとらえ、思考力や判断力、表現力を養うことができる授業の展開を重視して、取り組んでみた。また、従来のTT授業で使われてきた「T1・T2」という表現に「主・副」とのイメージがあり、T2の役割として「T1の補助」というイメージを払拭し、二人で指導するプロセスの構築を目指すために、「フロントティーチャー・バックティーチャー」という呼び名に変えて、どちらの教師でも、指導の主導権がとれたり、個別の指導に当たったりするという、臨機応変に動ける立場やスタイルでの授業の展開を目指した。この実践により、TT授業や少人数制授業の利点が、さらに生かせ、生徒の個に応じた指導がより合理的かつ有効的に展開できればと期待している。

【資料3】

段階 時間	学習内容・活動	徹底 能動	教師の支援		関心・意
			F T (フロント・ティーチャー)	B T (バック・ティーチャー)	
つか む (10)	1 英語で挨拶をする	徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元気に挨拶し、英語学習の雰囲気を作る。</li> <li>・プリントを用い、新出単語の確認</li> <li>・既習単語の定着の確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主学習ノートを点検する。</li> <li>・個人内評価を記入する。</li> </ul>	
	2 テスト				
広 げ る	3 教科書の内容について考える ・本文を和訳する ・O&Aで内容を 確認する ・本文を音読する	徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視聴覚的にも本文の内容理解を促すためにデモンストレーションを行い、本時の学習への意欲づけを図る。</li> <li>・和訳を通して本文の要点(異文化理解)を確認させる。</li> <li>・モデルリ・ディング(読めない生徒に個別指導する)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピクチャー・カードを掲示する。</li> <li>・発表者のボランティアカードにスタンプを押し意欲づけを行う。</li> </ul>	

#### ( ) 成果と課題

##### 1. 研究の成果

- ア 基礎基本の確実な定着に向けて基礎的・基本的な考え方(基礎学力)を繰り返し学習し、それを振り返ることが大切であるととらえ、取り組ませる時間を授業の中に設定することで指導項目を精選することができた。
- イ 自ら学習課題を発見し、解決に向けて取り組む能動型学習を授業の中に設定することで、生徒たちも互いに「学び合い」・「助け合い」・「認め合い」ながら、楽しんで課題追求を行うことができた。
- ウ 個に応じた授業の展開について数・英を中心にTTと少人数制による授業で取り組んでいるが、生徒にとって「質問しやすい・先生に詳しく見てもらえる」など生徒に好評であり、教師にとってもきめ細やかな指導ができ有意義であった。

##### 2. 研究の課題

- ア 徹底指導の中で繰り返し学習し、振り返らせた事項を確実に定着させる確認の場をどのように創り出すかが必要である。
- イ 数・英を中心にTT授業と少人数制による授業で取り組んでいるが、指導展開や役割分担の打ち合わせ等の時間の確保が必要である。

#### ( ) 成果の普及方策(省略)

( ) その他 (参考)

1. 選択教科の履修幅の拡大と柔軟性ある運営

「選択教科」の履修は、「中学校段階が、小学校と比べ個性の多様化が一層進むことを踏まえて、一人一人の生徒の特性等に応じた個性を生かす教育を実践していく」という考え方に立って、新学習指導要領から拡大されてきた。教科等の学習で抱いた興味・関心や学習意欲を生徒が選択した教科の学習で一層深め、生徒一人一人の持ち味を伸ばすことがねらいである。

このことを受けて本校では、各学年ごと選択教科の履修幅を拡大させるとともに、1単位時間の弾力的な運用として、1校時開始前に1モジュールを25分とした選択教科を週2日実施している。モジュールを取り入れた週時程と選択教科の開設については、右記の通りである。

月-金の時間	月	火	水	木	金
8:05~8:30	朝自習	05 選 択 (25分)	B日課	朝自習	1 選 択 (25分)
8:15~8:30	職員朝会			職員朝会	
8:30~8:40	学 活				
8:45~9:35 1校時	2	8	13	19	25
9:45~10:35 2校時	3	9	14	20	26
10:45~11:35 3校時	4	10	15	21	27
11:45~12:35 4校時	5	11	16	22	28
12:35~13:05 13:05~13:40	給 昼 休 食 替 除 え				
13:40~13:55 13:55~14:05	掃 着 替 除 え				
14:05~14:55 5校時	6	12	17	23	29
15:05~15:55 6校時	7		18	24	
16:00~16:15	学 活				
16:15~	放 課				

【資料4】